

第4学年 社会科学学習指導案

は組 男子19名 女子20名 計39名
指導者 鮫島純二

1 小単元 交通事故や事件からくらしを守る

2 小単元について

(1) 小単元の位置とねらい

子どもたちは、これまでに学校周辺や市内の土地利用の様子、工場で働く人々、生活で使う道具の変遷等の学習を通して、場所による土地利用の違いや生産活動における工夫や努力、そしてくらしをよりよくしたいという人々の思いや願いをとらえてきている。このような学習をしてきている子どもたちは、自分たちの生活を支えて、さらによくしていこうとする人々の働きに目を向け、そこで働く人々の仕事内容や役割、自分たちの生活とのかかわり等について追究していきたいという意欲が高まっている。

そこで、本小単元では、交通事故や犯罪から人々の生活を守る警察の仕事を中心に追究する活動を通して、自分たちの生活の安全を守るために、事件や事故の防止に努めるとともに、緊急時に対処する態勢を敷いていることをとらえさせるようにする。また、事故や犯罪に関する具体的な資料を活用したり、警察の仕事について見たり、聞いたりする体験的な活動を通して、自分たちの生活の安全が確保されるために警察や関係諸機関の働きと地域の人々の安心・安全な生活とを関係付けて考えられるようにする。そして、安全を守ろうとする人々の働きに共感し、自分たちも地域社会の一員として安心・安全なくらしを実現していこうとする意識を育てようとするものである。

このような学習は、火災等の災害から人々の安全を守るための諸機関の働きや従事している人々の工夫や努力を追究していく活動へと発展していくものである。

(2) 指導の基本的な立場

近年の鹿児島県内の交通事故発生件数は約1万件以上に上り、鹿児島市内の発生件数はその半分近くを占める状況である。以前からすると減少傾向にあるが、未だに高齢者を中心に多数の人々が死傷している状況である。また、犯罪発生に関しても近年、凶悪化、低年齢化の様相が見受けられ、子どもが巻き込まれる犯罪も発生する等、市民生活への不安が増大している。そのような中、警察を中心として関係諸機関では様々な工夫や努力が重ねられている。交通事故や犯罪の防止に関しては、各種取り締まりの強化、防犯教室や安全指導等による啓発、施設・設備の充実等が挙げられる。また、緊急時に備えた勤務体制、迅速な初動体制や関係諸機関との連携による素早い対処、パトロール等日常の活動も行われている。

そこでここでは、自分たちの生活の安全を守るための取組を具体的に考えられるようにするために、交通事故防止や防犯に携わっている警察の仕事を中心に取り上げていく。また、交通事故や事件の未然防止を図るために、地域の人々の活動が深く関わっていることを考えさせるようにする。

そのためにまず、学校近くにある交差点の交通量を表したグラフと事故発生件数を示す数値、市内における刑法犯犯罪の発生件数と警察の人数から「警察の人たちはどのようにして安全な生活を保っているのだろうか。」という問題意識をもたせ、生活の安全を守る警察の仕事への追究意欲を高めたい。次に、学習問題に対する一人一人の予想を基に、追究計画を立てさせ、事故や事件に迅速な対応をするための工夫や努力、事件・事故の未然防止の観点から調べさせるようにする。その際、安全なくらしを守るための法やきまりに触れるようにする。そして、警察の仕事の観察や人材活用を行うことで、警察の仕事への興味・関心を高め、安全なくらしと人々の努力や工夫とを関係付けて考えさせるための根拠となるようにしていきたい。さらに調べたことをや考えたことを整理、再構成するために、グループで新聞形式にまとめさせていく活動を行なわせ、自分なりの言葉や絵図等で表現できるようにしていく。さらに、交通事故や犯罪の防止が市民全体の願いであることをとらえさせるために、自動車警ら隊の結成や地域や企業の防犯組織の活動を取り上げるようにする。

このような学習を通して、子どもたちは生活の安全を守るための警察の働きが分かる楽しさや喜びを味わいながら、緊急時に備えて関係機関との連携や協力について考えたり、調べたことや考えたことを表現したりする力を高めたりすることになる。

(3) 子どもの実態（調査人数39名、質問紙法、ウェビング図、重複回答、主な質問事項のみ記述）

この学級の子どもたちの警察の役割や働きに対する見方や考え方は次の通りである。

1	交通事故の経験 ・事故に遭った(5) ・事故を見た(25) ・経験なし(9)
2	事故発生時の関係機関の動き ・警察(29) ・救急隊(15) ・病院(7)
3	事故防止のための手立て ・巡回(17) ・市民の注意(14) ・啓発活動(10) ・交通整理(4) ・取り締り(3)
4	交通事故対応以外の警察の仕事 ・逮捕・拘束(25) ・巡回(12) ・交通整理(5) ・道案内(4) ・取調べ(4)
5	防犯のための手立て ・巡回・職質(32) ・各種啓発活動(21) ・個人での対策(17) ・地域の協力(6)
6	活用する資料(教科書、副読本以外) ・見学・調査(31) ・インターネット(29) ・図書資料(20)
7	資料活用能力 ① グラフ…全体的な傾向(39), 最高点(36), 高低差(18) ② 図…連絡の流れ(24), 対象の指摘(6) ③ 写真…事実の把握(39), 比較(31), 背景の予想(23), 8. ウェビング図による傾向
	

子どもたちは、交通事故を直接的または間接的に経験しており、事故対処時の警察の存在や働き、それ以外の仕事についてもある程度多様な見方ができている。しかし、それらの関係性や、安全な生活へのつながりについては十分とらえられていない。そこで、子どもたちの警察の仕事に対するの追究意欲の高さを生かし、観察やインタビュー等の主体的な調べ学習ができるようにしていきたい。また、事故防止や防犯のために、地域等での取り組みについて具体的に取り上げ、警察以外の連携・協力の重要性を考えさせていきたい。

そこで、ここでは、警察の仕事を見たり聞いたりする活動や、地域の安全な生活に関わる人材の活用を図った調べ学習を展開していく。また、グループや全体の場において、調べたことを整理、再構成する場を設定して、警察の働きについて新聞形式やポスター等にまとめさせたり、事故や事件の防止のために、警察だけではなく市民全体が、より安心・安全な生活を目指していることを考えさせたりしていきたい。

定して、警察の働きについて新聞形式やポスター等にまとめさせたり、事故や事件の防止のために、警察だけではなく市民全体が、より安心・安全な生活を目指していることを考えさせたりしていきたい。

(4) 指導上の留意点

以上のことを踏まえ、指導に当たっては、次のようなことに留意したい。

単元の学習過程においては、「交通事故や犯罪への対処」「交通事故の未然防止や防犯」という柱で主体的な追究をさせていく。その際、警察の働きや警察以外の安全を守る諸活動と安心・安全な生活に対する市民の思いや願いを関係付けながら追究させていく。その際、それぞれの学習過程において、言語活動や体験活動を充実させるようにする。

ア まず、附属小学校周辺で事故が起きやすいと思われる場所を予想し、その後、実際の事故発生場所や件数を提示したり、市内の刑法犯発生件数や警察官の数等を提示したりして「事故や事件から人々の生活を守るために、警察の人たちはどのようなことをしているのだろうか。」という問題意識をもたせたい。そして、もち得た問題意識を基に、警察の働きを予想させたり、調査、インタビュー等の活動を通したりして、地域の安全がどのように維持されているのかということについて追究していく意欲を高めていきたい。

イ 自分たちの安心・安全な生活の維持のための警察の働き、関係諸機関との協力・連携の必要性和重要性をとらえさせるために、交通事故や防犯を中心とした警察の仕事内容を重点的に追究させていくようにする。交番や県警本部の様子を観察したり、聞き取りを行ったりする活動の中で、日頃の事故防止や防犯への取組み、緊急時の出動体制やそれに対応する施設・設備等に見られる工夫や努力をとらえさせていく。次に、市民全体が願う安心・安全な生活の事例として、各種子供110番の家や地域組織等を取り上げ、警察と関係諸機関との連携・協力の大切さについて気付かせていきたい。その際、子どもにとって馴染みのある交通や防犯に関する法やきまりに着目させ、自分たちもそれらを守ることで地域社会の一員として安心・安全な生活を築いているということを考えさせていきたい。

ウ 交通事故や犯罪への対処、事後処理、防止といった観点でグループごとに新聞やポスター等にまとめさせていく。その際、警察や地域の人々の工夫や努力、地域の一員として、地域社会の安全な生活の実現のために自分たちができる対策等、自分なりの考えも併せて表現させていきたい。

3 目 標

- (1) 交通事故や事件から人々の生活を守るための警察や関係諸機関の働きに関心をもち、これまでの学習を振り返りながら主体的に取り組むことができる。
- (2) 人々の安全な暮らしを守るための警察や関係諸機関の工夫や努力と自分たちの日常生活とを関係付けながら考えることができる。
- (3) 警察署や交番の様子の見学や観察を通して、自分が調べたことを明確にしていくために、見学のしおりにまとめたり、新聞やポスター等の作品にまとめることができる。
- (4) 警察署は関係諸機関と相互に協力し合いながら、人々の安全な生活を守るために工夫や努力をしていることを理解し、自分たちも地域の一員として、より安全な生活を送っていくことの大切さに気付くことができるようにする。

4 指導計画 (全 10 時間)

学習過程	主な学習活動	学び合う喜びや楽しさの深まり	教師の具体的な働きかけ
つかむ ① 立てる ① 調べる ⑥ まとめる・広げる ②	<p>1 交通事故や犯罪の発生数を基に気付いたことや疑問に思ったことから、学習問題を設定する。</p> <p>事故や事件から人々の生活を守るために、警察の人たちはどんなことをしているのだろうか。</p> <p>2 学習問題について予想し、調べる内容や方法の追究計画を立てる。 〔調べる内容追究の柱となるもの〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 交通事故や犯罪への対処 ○ 交通事故の未然防止や防犯 <p>〔調べる方法〕 教科書、副読本、調査、聞き取り等</p> <p>3 県警本部や交番の観察、聞き取りを行い、事故と犯罪への対処と防止について調べる。</p> <p>4 交通事故や犯罪への対処について話し合う。</p> <p>(1) 交通事故の対処や未然防止について話し合う。</p> <p style="text-align: center;"><事故・犯罪への対処></p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 事故対応 ・検証、規制 ・拡大防止 </div> <div style="font-size: 2em;">}</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 犯罪対応 ・捜索、逮捕 ・早期解決 </div> </div> <p style="text-align: center; margin-top: 5px;">早急な解決、被害拡大防止</p> <p>(2) 防犯とより安心・安全な生活について話し合う (本時)</p> <p style="text-align: center;"><防犯対策></p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 警察 ・犯罪マップ ・啓発、指導 ・警ら隊 安全性向上 </div> <div style="font-size: 2em;">}</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 地域等 ・子ども110番 ・青パト、PTA ・防犯カメラ 独自の対策 </div> </div> <p style="text-align: center; margin-top: 5px;">地域の安全性の向上</p> <p>警察は、安心・安全な生活を守るため、地域と協力しながら素早く対処したり、防止に努めたりしている。</p> <p>5 これまでの学習を基にして、グループで新聞にまとめる。</p>	<p>市内は交通量が 多く危ないな。</p> <p>事件も多く発 生しているぞ。</p> <p>交通量が多いのに交通事故が以 外と少ない。警察官が少ないのに 犯罪は増えないのかな。</p> <p>警察の人々はどうやって事故や 事件に対応したり、防いだりして いるのだろうか。</p> <p>事故処理や けが人の保護、 検証を行なっ ているんだな。</p> <p>捜索や救助、 逮捕、拘束、取 調べ等を行なっ ているんだな。</p> <p>調べたこと以外にも自分たちの 気付かないところで、様々な工夫 や努力をしているんだな。</p> <p>交通事故も事件も昼夜を問わ ず迅速に対応して、いち早く解 決したり、繰り返し起きないよ うにしているんだな。</p> <p>交通事故や犯罪を防ぐために、 様々な工夫や努力がされているが、 自分たちの心構えも大切だ。</p> <p>防犯のためには、警察の働きだ けでは十分でなく、地域や企業等 の人々と協力していくことが必要 なんだな。</p> <p>安心安全な暮らしは、市民全体 の願いであり、警察任せではなく、 市民みんなで取組んでいかねばな らないんだな。</p> <p>警察の人た ちの苦勞が 分かったぞ</p> <p>みんなで安 全を守って いるんだな</p> <p>何かできる ことを考え よう</p>	<p>㊦ 表 (交差点の交通量と事故発生件数)</p> <p>㊦ 表 (犯罪発生件数と警察官数)</p> <p>○ 警察の人たちが交通事故や犯罪から安全な生活を守るために、どのようなことを行なっているのかという問題意識をもたせるために、事故や犯罪の発生件数を提示し、警察の役割や働きについて焦点化を図る。</p> <p>㊦ パンフレット (かごしまのけいさつ)</p> <p>○ 交通事故や犯罪への対処についてとらえさせるために、組織や活動内容について資料を基に主体的に追究させ、早期解決、被害拡大防止の手立てを考えさせる。</p> <p>○ 交通事故の未然防止と防犯についてとらえさせるために、啓発や指導、巡回などの業務に着目させ、日頃からの対応や備えについて考えさせる。</p> <p>㊦ 人材活用 (交番の警察官)</p> <p>○ 資料を基にした追究の中で分かったことを、実際の活動と関連させて考えさせることで、聞き取りを行い、日頃の工夫や努力について考えさせるようにする。</p> <p>㊦ グラフ (近年の交通事故件数の推移)</p> <p>○ 交通事故と犯罪の対処が迅速に行われ、早急に解決されていることに気付かせるために、それぞれの対処について、通報から現場急行までの過程を比較させて考えさせる。</p> <p>㊦ 実物 (子ども110番、青パト備品)</p> <p>㊦ VTR (交番の警察官の話)</p> <p>○ 警察の働きが自分たちの生活に反映されていることをとらえさせるために、警察の人たちの働きと安全な生活とを関係付けて考えさせる。</p> <p>○ 事故防止や防犯の充実が図られていることに気付かせるために、新たな警察内の組織や地域団体との連携・協力に着目させ、より一層の安全性確保について考えさせる。</p> <p>○ 習得したことを活用することができるようするために、分かったことや地域のために考えられることを記述させたり、説明させたりする。</p>

5 本 時 (8 / 1 0)

(1) 目 標

- ア 警察と地域の人々との連携・協力について考え、これまでに調べてきたことを基に、防犯対策について意欲的に追究することができる。
- イ 防犯対策について話し合う活動を通して、警察の仕事と地域の人々の取り組みによって、地域の安心・安全な生活が維持、向上されていることをとらえることができる。

(2) 本時の展開に当たって

本時の展開に当たっては、地域社会の安心・安全な生活のために警察と地域の人々が互いに連携・協力していることをよりよくとらえさせるために、**県警の自動車警ら隊や地域の防犯活動についての資料を基に、市民全体が安心・安全な生活を実現しようとしていることを考えさせたい。**

(3) 実 際

学習過程	主な学習活動	時間	教師の具体的な働きかけ
の追 具究 体問 化題	1 本時における追究課題を確認し、 具体化する。 警察の人は、犯罪を防ぐためにど のようなことをしているのだろうか。	7	㊟ 地図 (犯罪発生マップ) ○ 「警察の人は犯罪を防ぐためにどんなことをしているのだろうか。」という問いをもたせるために、犯罪発生の分布や数、交番の位置等を話し合わせる。
計究 画明	2 学習の進め方や資料について話し合う。 ・ グループ調べ、話し合い→全体での話し合い ・ 資料=これまでに調べた内容		○ 本時の学習の進め方を明確にし、見通しをもった追究をできるようにするために、前時までに学習した警察の仕事を基にして防犯への取り組みについて話し合わせる。
追 究 問 題 の 究 明	3 防犯に関する警察と地域との連携や協力について話し合う。 (1) 警察と地域のそれぞれの取り組みについて話し合う。 (2) 警察と地域の連携や協力について話し合う。	30	㊟ 実物 (子ども 110 番の家・青パト隊備品) ○ 各地域の人々がそれぞれ安全な生活を守っていることをとらえさせるために、対応マニュアルや備品等に注目させ、地域の独自性を考えさせたり、警察や他の機関と連携していることを考えさせる。
	<div style="text-align: center;"> <p><防犯対策></p> </div>		㊟ 新聞記事 (自動車警ら隊) ○ 警察がさらに犯罪の減少を目指していることをとらえさせるために、自動車警ら隊が創設された事実に着目させ、より迅速に、重点的に対応して治安の維持、向上に努め、役に立っていることを考えさせる。
ま と め	4 本時の学習についてまとめる。 警察の人たちは、地域の人々と連携・協力しながら、安心・安全な生活を実現しようとしている。	8	㊟ VTR (交番の警察官の話) ○ 安心・安全な生活のためには、警察と地域との連携や協力が必要であることをとらえさせるために、警察の人の話を聞き、犯罪発生マップ上に警察以外の施設・設備等が市内全域に点していることを読み取らせ、市民の願いが反映されていることを話し合わせる。
	5 次時の学習について話し合う。 ○ 学習したことを生かしての新聞やポスター等の作成		㊟ 絵図 (いかのおすし) ○ 安心・安全な生活のためには、自分たちも決まりを守ることが大切であるということをとらえさせるために、いかのおすしの意味と役割について話し合わせ、自分の身を守ることにつながることを考えさせる。